

発作を考慮しての「動きを基礎とした学び」

発作の傾向を持つ子ども達と関わる場合に一番良いのは、医者との協働です。さらに以下の提案は、発作の頻度、激しさや継続時間を、やがては減少させるかもしれない指針です。

脳内の無秩序な活動のもつれをほどくために、私たちは簡単な動きを用いること、そうすることで、子どもは本来の機能へと戻ることができるということを覚えていてください。発作が明らかに減っているときも、発作の制御の適合や監視のため、薬物治療は必要かもしれません。このことが、医療専門家と連絡を取り合うための、もう一つの理由でもあります。

発作の傾向がある子ども達に「動きを基礎とした学び」を使う

1. 学びの準備のために:水(効率的な処理のため脳に水分補給)とコアの活性化
2. へそ放射
3. 脊椎散歩
4. 頭蓋骨タッピング
5. 耳ホッピング
6. 目の活性化
7. 足を伸ばすアクティビティ
8. ホモラテラル・クロール(右の写真を参照)
9. 最初の段階では、身体の縦の正中線を超える動きを避ける
10. 医療手順に従う。子どもの発作に遭遇したら、常に医療手順に従うこと。その次に、子どもにフック・アップ(p.54)というブレインジムエクササイズをさせることもある。また、子どもの額に指を軽く当てるブレインジムのポジティブ・ポイント(p.54)は、ストレス下にあるときに意識的計画なくふるまう反射的行動を抑える可能性がある。



▲ホモラテラル(パペット)・クロールは、発作性疾患の子ども達のために提案する変更案です。

よく聞かれる質問は「動きを基礎とした学びのプログラムで、ホモラテラルな動きから始めた子どもが、クロスラテラルの動きに移る準備ができているかどうか、どうしたらわかりますか?」というものです。これに対する処方箋もありません。私たちがしなければならないことは、観察、気づき、実践と信頼です。その子どもが処理正中線を越える動きに移行できるかどうかを見分ける洞察力を持つ他の専門家に助言を求めましょう。